

まつもとしほりごめ

12月11日、松本市堀米保育園の年長組18名の園児を対象に冬の森林教室を実施しました。

同保育園との交流は10年以上続いており、職員にとっても待ち遠しい恒例行事となっています。

最初に署長から森林管理署が行う仕事や森林に住む動物についての説明がありました。

続いて職員から紅葉、落葉の仕組み、どんぐりの育ち方、鳥などにより種子が遠くまで運ばれることで植物の生育範囲が広がっていくことをクイズ形式で分かりやすく学びました。

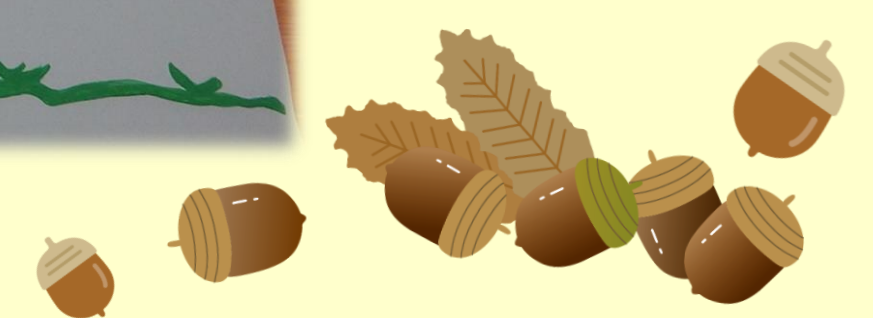


園児たちの作業風景

クイズの後は、「ほりごめのどんぐりの木」と題した活動を行いました。令和7年はどんぐりが不作で、熊がエサを求めて里に下りてきていました。園児達は、模造紙に描かれた「どんぐりの木」の大きな幹のまわりに自分の似顔絵などを描いた折り紙やどんぐりの形に切った色とりどりの折り紙を自由に貼り付けて、みんなで楽しく作りながら、どんぐりの豊作を願いました。



どんぐりの木



「世界に一つだけのクリスマスツリー」作り

園児たちの真剣な表情や笑顔と楽しさがあふれる微笑ましいひと時を過ごしました。

今回の活動で園児たちは森林や自然に親しむ楽しさを体験しながら楽しい時間を過ごしました。

今後も、幼児期から森林に親しみを持ってもらえるような取組を継続してまいります。



堀米保育園の園児たちと記念撮影